

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 新版 目でみるMMT	共	2015年9月	医歯薬出版	MMT=徒手筋力検査法について、その流れと方法を画像を中心に解説した。各項目は見開きで1動作を確認できるよう編集されており、学生が学内・学外授業において、学修しやすいような形で掲載されている。 監修・編者：佐藤三矢、平澤玲、舟木優佳 担当部分の概要：手指に関するMMTページについての企画、編集。
2 (国際学会発表) Attempt to develop a checklist to identify the four major dementia types	共	2017年10月	the 1st Asia Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTS 2017)	高齢者施設入所中の認知症高齢者72名の日常生活上の問題行動を収集、認知症診断名との相関を分析したところ、アルツハイマー型認知症と脳血管型認知症で特徴的な問題行動が抽出された。 (Yuuka Funaki, Rei Hirasawa, Hirofumi Yamaji) 担当の概要：データ集積、解析、論文の執筆
3 (国際学会発表) Differences between the behavioral characteristics in Alzheimer's disease and those in other types of dementia	共	2016年10月	the 10th Asian Society Against Dementia (ASAD) International Congress	4 大認知症ごとの行動特性を明らかにするため、高齢者施設を利用している65歳以上の高齢者の入所直後3ヶ月の認知機能、行動障害、妄想などの状況について、認知症行動情報集シートに基づきデータ収集を行った。59名を解析した結果、有意な差を認めた項目が4項目検出された。 (Yuuka Funaki, Rei Hirasawa, Toshimitsu Kido, Takuya Shiromoto, Hirofumi Yamaji) 担当の概要：データ集積、解析、論文の執筆
4 (国際学会発表) A survey on the problems Japanese occupational therapists perceive when diagnosing dementia	共	2015年9月	23th World Congress on Psychosomatic Medicine	高齢者施設で働く作業療法士が臨床現場で感じる、認知症診断の現状・問題点についてアンケート調査を行ったところ、半数以上がカルテ上の診断と患者本人の症状が不一致であると感じていると回答するなど、医師が常勤ではない地域の高齢者施設において、一次医療施設との連携不足の状況が示唆された。 (Yuuka Funaki, Rei Hirasawa, Hitoshi Okamura) 担当の概要：データ集積、解析、論文の執筆
5 国際学会発表 Do rehabilitation staff recognize the difference between late paraphrenia and dementia? A questionnaire survey	共	2015年3月	12th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases	老年期施設に勤務している作業療法士300名に対し、最遅発性統合失調症の認知度調査を実施したところ、認知度は1割に満たなかった。一方、認知症と診断されている患者の中でも、認知症とは異なる症状を疑うケースがあると回答したものが多く潜在的な最遅発性統合失調症患者の可能性が示唆された。 (Yuuka Funaki, Rei Hirasawa, Hideaki Hanaoka, Fumiko Kaneko, Hitoshi Okamura) 担当部分の概要：データ集積、解析、論文の執筆